

投資における「リスク」の考え方



投資における「リスク」とは

一般的に「リスク」という言葉には、「危険なこと」や「良くないこと」といったイメージがあります。しかし、投資におけるリスクとは、「**将来得られるリターン(収益または損失)の振れ幅**」、つまり値動きの大きさを意味します。

具体的には、ハイリスクとは『リターンの振れ幅が大きい状態』を指します。そのため、高い収益が期待できる一方で、大きな損失が発生する可能性もあります。反対にローリスクとは『リターンの振れ幅が小さい状態』を指します。この場合、大きな収益は期待しにくいものの、損失が発生した場合でもその大きさは比較的限定的であると考えられます。

このように投資におけるリスクとは「危険度」を表すものではなく、「将来のリターンがどの程度変動する可能性があるか」を示す指標です。

● ワンポイント

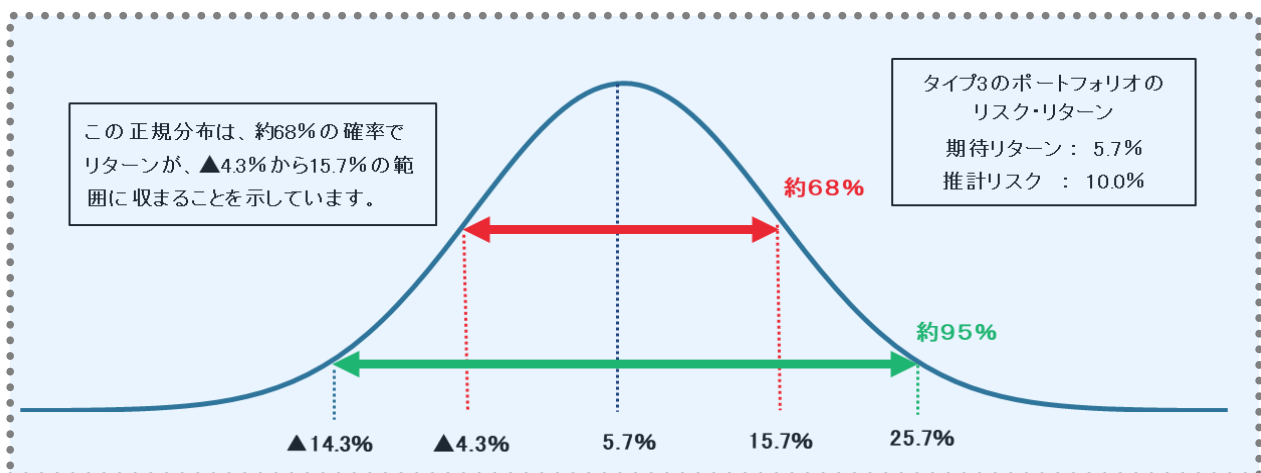
リスク(リターンの振れ幅)の大きさを客観的に比較するために用いられる代表的な指標が「標準偏差」です。



期待リターンとリスク(標準偏差)の関係

前述のとおり、「標準偏差」はリターンの振れ幅の大きさを表す数値であり、標準偏差が大きい(リスクが高い)ほど値動きの振れ幅が大きく、標準偏差が小さい(リスクが低い)ほど値動きが安定していることを意味します。

つまり、期待リターン5.7%、推計リスク10.0%のタイプ3のポートフォリオのリターンが正規分布に従うならば、同ポートフォリオの1年間のリターンは約68%の確率で、▲4.3%から+15.7%の範囲に収まると推計されます。



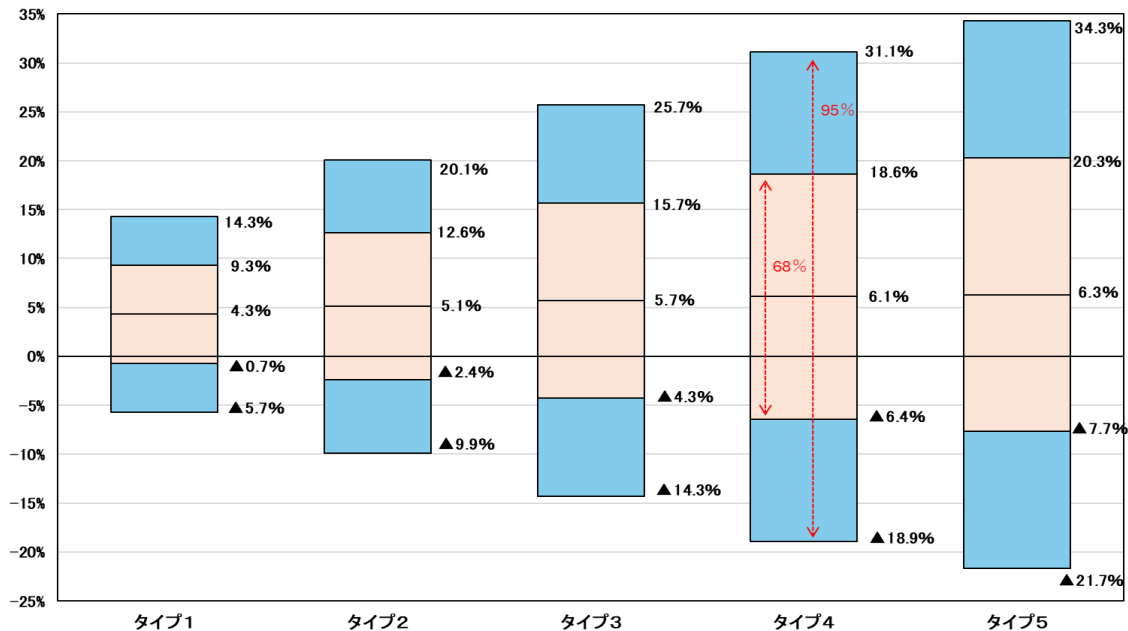
<ご参考>

リスクの違いは、上記グラフでは分布の広がり方として表れます。リスクが高いほど横に広がり、リスクが低いほど期待リターン付近に集中します。



各タイプ別の収益率の予想分布

GMAPモデルポートフォリオ・1年後収益率の予想分布



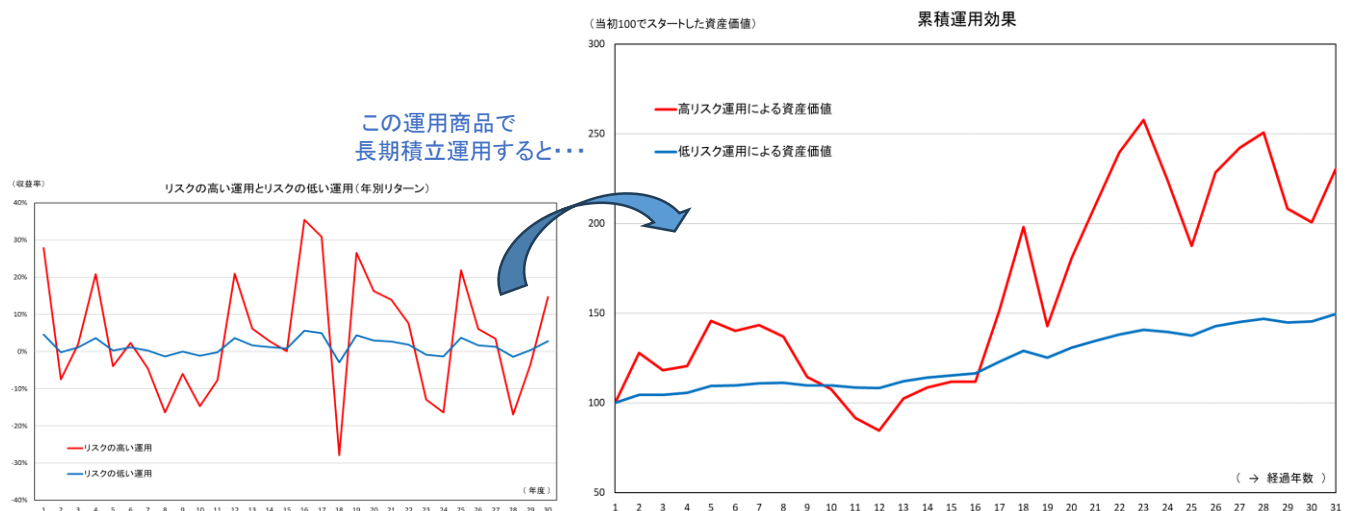
(出所) GMAP夏2026年6月号のSAA 各タイプの期待リターン・推計リスクを基に八十二証券が作成。

上グラフはGMAPのタイプ別モデルポートフォリオの期待リターン・推計リスクに基づいて算出した1年度の投資成果予想分布です。あくまでGMAPのデータに基づく例示であり、実際の投資や金融商品取引を示唆するものではありません。また、将来のパフォーマンスを示唆するものでもありません。

リスクを時間で乗り越え～長期・積立運用の選択肢

リスクの低い運用は単年での収益率の変動が比較的小さい一方、リスクの高い運用は収益率が大きく変動する可能性があります(下左図参照)。

しかし、長期にわたり積立投資を続ける場合、リスクの低い運用は資産の増加が比較的緩やかになる一方、リスクの高い運用は短期的な値動きは大きいものの、時間分散や複利効果によって、より大きな資産形成が期待できます。(下右図参照)。



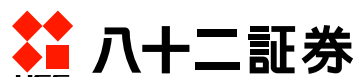
【免責事項】

○本資料は、公表された資料に基づき作成されたものであり、その正確性、完全性を保証するものではありません。

○本資料は、お客様への情報提供を目的としたものであり、投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、本資料をお客様ご自身のためのみ、お客様限りでご利用ください。なお、当社の事前の承諾を得ることなく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

○本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社は、理由の如何を問わず責任を負いません。

広告審査済



商号等: 八十二証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第21号
加入協会: 日本証券業協会、
一般社団法人 資産運用業協会